

- 問1 日本の農業において、就業者に占める農林水産業従事者の割合が約2%という現状や、従事者1人あたりの農地面積が約3.6ヘクタールという少なさから生じている、日本の食料生産上の課題とその背景を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
1. 農業従事者が少ないのは、若者がこぞって大規模な農地経営を始めたためであり、1人あたりの農地面積は急速に拡大している。
 2. 農地面積が狭く大規模化が困難なため、生産コストが高くなりやすく、安価な輸入農産物との競争が激しくなっている。
 3. 集約的農業によってあらゆる作物の自給率が100%を超えているため、輸出先を確保することが最大の課題となっている。
 4. 農林水産業従事者の割合が低いため、農地が余ってしまい、耕作放棄地を住宅地に転用する動きが全国で止まっている。
- 問2 2020年の農業産出額の統計において、畜産が全体の約7割を占めている県があります。この県において畜産業が発達した土地の条件として、適切な説明を選びなさい。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
1. 干拓によって広大な土地が確保されたが、塩分が含まれているため家畜の飼料作りが優先されたため。
 2. 山地が険しく耕作地が少ないため、傾斜地を利用した放牧が行われてきたため。
 3. 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水はけが良すぎて水田稲作に適さなかったため。
 4. 冬の積雪が非常に多く、1年の半分は畑での作物の栽培が困難であるため。
- 問3 日本企業の海外生産比率が上昇を続け、2015年には25%近くに達したという統計が見られます。製造業が生産拠点を海外へ移転させる主な理由と、その結果として国内で懸念される状況の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 日本国内の市場を拡大させるため、国内の生産設備を最新のIT技術に置き換える。
 2. 円安による輸出利益の増加を狙うため、国内の工場をすべて閉鎖して本社機能のみを残す。
 3. 輸送コストを削減して地産地消を推進するため、国内の農業従事者が製造業へ転職する。
 4. 海外の安価な労働力を活用してコストを下げるため、国内の関連産業が衰退し雇用が失われる。
- 問4 1955年から1970年ごろの統計において、日本の総人口は増加傾向にあったにもかかわらず、大分県などの地方では一時的に人口が減少していました。この現象が起きた直接的な要因として適切な説明はどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 地方において過疎化による自然減が深刻化し、出生数が死亡数を大幅に下回ったため
 2. 高度経済成長の影響により、就業機会の多い大都市へ向けて激しい人口流出が起きたため
 3. 大都市から地方への移住を促す「Uターン現象」が全国的に拡大したため
 4. 第2次ベビーブームが終わり、若年層の人口が急激に減少したため
- 問5 高知県で盛んに行われているナスの栽培において、冬から春にかけての出荷時期を早める工夫が行われている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 山形県公立入試 類似)
1. 連作障害を防ぐために、特定の時期に集中して土地を休ませる必要があるため
 2. 他の地域からの出荷が少ない時期に販売することで、高い価格で取引するため
 3. 輸入品との価格競争に勝つために、生産コストを極限まで抑える必要があるため
 4. 夏の台風被害を避けるために、すべての収穫を春までに終わらせる必要があるため
- 問6 主要国のエネルギー自給率を比較した統計において、オーストラリアが301.0%、アメリカが88.4%、中国が79.8%であるのに対し、日本は約8.3%という極めて低い水準にあります。このような状況の中で、日本の周辺海域に存在するメタンハイドレートの実用化が期待されている最大の理由として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 採掘した資源を積極的に海外へ販売し、日本の資源輸出量を拡大するため
 2. 太陽光や風力などの再生可能エネルギーに代わる、主要な発電方法を確立するため
 3. 海外からの輸入に頼る現状を改善し、日本のエネルギー自給率を高めるため
 4. 燃焼時に二酸化炭素を一切排出しない性質を利用し、環境負荷をゼロにするため
- 問7 IC（集積回路）などの電子部品の輸出において、輸送費が高い航空輸送が多く利用される理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
1. 製品そのものが非常に重く、大型船の積載制限を避けて空路を利用する必要があるから。
 2. 海上輸送に比べて輸送中の温度管理や振動対策にかかる費用を大幅に安く抑えられるから。
 3. 一度に運べる製品の総重量が海上輸送よりも大きいから、輸出効率が良いから。
 4. 製品が軽量かつ高付加価値であり、高い輸送コストを払っても短時間で届けるメリットが大きいから。
- 問8 日本企業が東南アジアへ進出する背景を説明する際、日本と東南アジア諸国との間にある「経済的な差」に着目する必要があります。1人当たり国内総生産（GDP）が日本よりも低い国々へ進出することでもたらされる、企業の利点として正しいものはどれですか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. 現地の労働者の教育水準が日本より高いから、教育コストをゼロにできること
 2. 賃金水準が日本より低いから、労働者を安い賃金で雇い、安価に製品を作れること
 3. 経済水準が低いから土地代が無料で提供され、工場建設費用が不要になること
 4. 1人当たりGDPが低い国では関税が完全に免除されるという国際的な決まりがあること
- 問9 日本各地の沿岸部に点在する石油化学コンビナートについて、その立地上の特色を正しく説明しているものはどれですか。 (2022年 山形県公立入試 類似)
1. 原料が重く、製造過程で重量が大幅に減少するため、原料の産地である山間部に形成されている。
 2. 騒音や大気汚染を防ぐため、消費地である大都市から遠く離れた離島や内陸のへき地に形成されている。
 3. 水資源を大量に消費するため、大規模なダムが建設された河川の上流部や内陸の湖畔に形成されている。
 4. 主原料である原油の輸入に便利な港をもち、関連する工場群が効率的に生産を行うため、臨海部に形成されている。
- 問10 日本の石油化学コンビナートが、主に太平洋沿岸の臨海部に立地している理由を、日本の資源事情と関連付けて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 1950年代以降、自給率が向上したことで、原料を供給する国内産地との連携を重視したため。
 2. 冷却水として大量の海水を必要とする一方で、原料自体は内陸の山岳地帯から運ばれるため。
 3. 国内の産油地からパイプラインで運ぶよりも、内陸鉄道を利用して製品を運ぶコストが安いから。
 4. 原油自給率が極めて低く輸入に頼るため、大型船での原料搬入や製品出荷に有利な場所に集まった。
- 問11 日本の資源・エネルギーに関連して、火山の近隣で行われる「地熱発電」の仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 高山県公立入試 類似)
1. 石炭や天然ガスを燃やして発生させた熱を利用して蒸気を作る。
 2. ウランの核分裂によって発生する熱を利用して蒸気を作る。
 3. 河川の上流にダムを建設し、貯めた水の落差を利用して水車を回す。
 4. 地下のマグマの熱で温められた蒸気や熱水を取り出してタービンを回す。